

INTERVIEW

東京北医療センター 管理者
宮崎国久先生



へき地医療のマインドをもった フラッグホスピタルになろう!

聞き手：山田隆司 地域医療研究所所長

何でもやる外科医として

山田隆司(聞き手) 今日東京北医療センターに管理者の宮崎国久先生をお訪ねしました。東京北医療センターは昨年地域医療振興協会の直営施設となった際に東京北社会保険病院から名称を変更したのですが、東京北社会保険病院と言えは、協会が初めて国から直接管理委託を受けた病院です。初代の管理者兼院長は吉新通康協会理事長でしたが、病院より先に介護老人保健施設さくらの杜が開所し、私もその初代施設長としてここに赴任しました。

宮崎先生は昨年6月に管理者に就任されたわけですが、今日は東京北医療センターの現状や今後の展望についてもお話をお聞きしたいと思います。

まずは先生のこれまでの経歴を伺えますか。

宮崎国久 私は長崎の島原市出身で地元の島原高校から自治医科大学に行きました。自治医大7期生です。卒業後は当時の国立長崎中央病院(現国立病院機構長崎医療センター)で2年間、スーパーローテートの初期研修を受けました。

山田 当時自治医大の長崎県の卒業生はみんなその病院で初期研修を受けたのですか？

宮崎 長崎県は自治医大卒業生だけではなく、離島医療圏組合の修学金制度があって、その人たちが長崎大学を卒業すると国立長崎中央病院でスーパーローテート研修を受けたのですね。当時スーパーローテート研修をしていたのは、沖縄県の県立中部病院と国立長崎中央病院だけだったと思います。その病院でのスーパーローテートは岩崎 榮先生が始められて、私が初期

研修中には米国から帰国された伴 信太郎先生がいらしていました。

山田 2年間の初期研修の後はどこですか。

宮崎 平戸の北西にある生月島へ1年間行きました。

山田 そこは診療所ですか

宮崎 病院です。長崎では義務中は病院へ行きます。

山田 何床ぐらいの病院ですか。

宮崎 50床ぐらいだったと思います。

山田 内科医としてですか。

宮崎 外科です。といっても内科医2名、外科医2名のところですから何でも診てました。

山田 3年目の時にもう外科医になろうと思っていたのですか。

宮崎 はい。生月島に1年いた後の4年目は後期研修でまた国立長崎中央病院に戻り、消化器を中心に外科研修をしました。そして5年目に上五島病院へ赴任し、5年間いました。上五島病院では外科だけではなく、整形外科の手術をしたり、泌尿器の先生が1人だったので腎摘などの手術を一緒にやったり、集中治療の管理や透析

もやっていました。

山田 何床くらいでしたか。

宮崎 190床ぐらいでしたね。

山田 それで外科医は何人ですか。

宮崎 外科医が3人です。

山田 200床程度の病院だと、手術に関するほとんどのことに携わらざるを得ないという感じですね。上五島病院では当時手術件数は多かったのですか。

宮崎 3人で年間200件くらいでした。かなり執刀もできましたし、外科医として非常に恵まれた環境でした。それと肝臓の疾患が多かったのですね。肝内結石や肝がんも多く、年間10例近く肝切除がありました。上の先生が執刀しましたが、そういう難しい手術に触れる機会がありました。当時の院長の専門が肝炎だったからだと思うのですが。

山田 そういう症例が集まりやすく、しっかり手術ができる環境だったのですね。

大学病院でも通用した島でつけた実力

宮崎 5年間上五島にいてそこで義務が終了し、さてどうしようかと考えた時に、5年間もいるとけっこう愛着が湧くし、自分なりに学会活動などとして論文も書いて臨床も満足いくところだったので迷いました。

山田 外科の専門医などの資格は取れたのですか？

宮崎 当時は認定医があったので、外科の認定医と消化器外科の認定医も取れました。

山田 義務年限の9年間で、外科医としては満足できる状態だったのですか。

宮崎 はい。それでもやはり1回どこかに出たいと思った時に、長崎県の公的な病院に就職しようと思うと長崎大学の医局に入らなければいけな

かったのです。でも、たとえ入ったとしても長崎の本土に残れるかどうかはわからない。そこで自治医科大学大宮医療センター(現自治医科大学さいたま医療センター)へ行くことにしました。その時に、例えば今の長崎市民病院がもしあったとしたら、絶対大村に行ったと思います。

山田 特に長崎を出たかったというわけではないですね。本学ではなくどうして大宮医療センターだったのですか。

宮崎 当時大宮が卒業生の梁山泊のような雰囲気があったのです。

大宮では自分がどれぐらいのレベルかを知ることができたのでよかったと思っています。自分